

2年算数 授業の見所

目指す子どもの姿

- ①課題意識や必要感をもって進んで学ぶ子
- ②自分の思いや考えを伝え合い，学び合う子
- ③自らの成長や他者と学ぶ価値を自覚する子

1. 「ん？」と思える導入【研究内容Ⅰ】

今まで楽勝でできていた筆算が「あれ？できないぞ」という場面を位置づけました。

「一の位の計算ができない」ということを明確にすることで、ゴールの姿及び解決しなければならない課題を自分事とすることができるよう工夫しました。

2. 考えをもたせるための工夫【研究内容Ⅱ】

子どもたちが同じ土俵で考える事ができるようにワークシート（位取り板）を用意しました。

※既習の考え方や数の表し方を生かしやすくするため

3. 話し合いを促すための工夫【研究内容Ⅱ】

今回の授業では、教師が教える場面と子どもが考えさせる場面を明確にしました。

ブロックを使って考える場面では、子どもに考えさせることを重視します。子どもたちが一の位の計算を成り立たせるためにどうすればよいかをブロック操作をもとに考えさせます。ブロックの動きに関わる説明の際には、考えをペアで復唱させたり、言葉の言い換えをさせたりして、繰り下がりの概念についての理解を促していきます。（ブロック操作で $4-8$ を $14-8$ にする⇒ 10 のまとまりを一の位に移す）

筆算の書き方を指導する場面では、子どもとのやり取りを生かしながら教師から教えることを重視します。ブロック操作をもとに、どのように筆算として表し計算していけばよいかを問い返したりや復唱させたりしながら、筆算の仕方を確かに理解することができるよう促していきます。特に、今回は、間違えた答えや計算方法を意図的に提示して思考を揺さぶることを通して、「どこが違うのだろう」と主体的に考えさせ、筆算の書き方や計算方法についての理解を深めることができるようにしました。

4. 振り返りシートの活用【研究内容Ⅲ】

「日付」、「自己評価（三段階）」、「振り返り」を書かせる振り返りシートを用いて、学習の到達度や何ができるようになったか、どのようにできるようになったかを自覚させることができるようにしました。

毎時間実施は難しいので、めあて的な課題のときや余裕のあるときに実施しています。

振り返りのレベルやモデルを示すことで、よりよい振り返りを行うことができるようにしました。

月 日 () 時間目

時間	記録	思ったこと・考えたこと